

# ここが問題！リニア新幹線

2016. 2. 24発行 NO. 40 リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 web-asao.jp/hp/linear

## 見えないリニア建設発生土の処分先と処理方法 ⇒ このままでは「トイレなきマンション」のおそれ

リニア新幹線の建設工事により、品川～名古屋の沿線全体では約6千万 $m^3$ （東京ドーム48杯分相当）の建設発生土が排出される。にもかかわらず、処分先と処分方法が決まっているのは数か所に過ぎず、処分方法も、リニアの車両基地の造成、他の公共工事（道路、宅地・公園の造成）への転用であり、それも全体量の2割に過ぎない。静岡県北部の大井川源流部の処分地については、県民や科学者から、「自然環境や生態系への影響が必至」として反対の声が上り、計画の変更を余儀なくされている。

川崎市におけるリニア工事による建設発生土と建設汚泥の量は、JR東海が407万 $m^3$ （うち建設汚泥は140万 $m^3$ ）であると公表している。その約6割にあたる250万 $m^3$ が梶ヶ谷貨物ターミナルに掘られる立坑（非常口）から排出されるが、JR東海は武蔵野南線を利用して貨物列車で臨海部に運び、船に積み込むと説明している。工事車両の数を減らすことにより環境への影響を軽減する優れた対策だとJR東海は説明するが、「できるだけ多くの量を鉄道利用で運びたい」というだけで、発生残土のうちどの程度を運ぶのかは不明であり、また、工事中に梶ヶ谷貨物ターミナルに出入りする車両の量や走行計画に変更は見られない。また船の行先も不明である。

右の表は、市内5カ所の立坑から排出されるリニア工事（立坑とトンネル掘削）による建設発生土・建設汚泥の量である。梶ヶ谷からの排出量が多いのは、中原区等々力までと麻生区東百合ヶ丘（3丁目）まで両方向にトンネルを掘り、それを梶ヶ谷から排出するため。また東百合ヶ丘からは片平まで掘った残土を排出するために2番目に多い。等々力・犬蔵・片平については立坑工事の残土とされる。ただ地中深くの土は地表に排出されると膨張し容量が増えると言われている。それを見込んだ数字かどうかは不明であり、疑問が残る。

発生地域 （立坑立地場所）	建設 発生土	建設汚泥
中原区等々力	14	4
宮前区梶ヶ谷	151	98
宮前区犬蔵3丁目	12	5
麻生区東百合ヶ丘	75	26
麻生区片平	15	7
計	267	140

建設発生土及び建設汚泥の発生量(万 $m^3$ )

### 武蔵野南線は川崎市内の家庭ごみ焼却灰を臨海部まで運んでいる

市内のゴミ搬送・処理について、現在は高津区の橋処理センターと麻生区の王禅寺処理センターの焼却灰を梶ヶ谷貨物ターミナルに運び、武蔵野南線で梶ヶ谷から神奈川臨海鉄道末広町まで（23km）一日一往復（17両編成）輸送している。輸送量は年間で18万トン（2004年）という。道路渋滞に影響されないこと、二酸化窒素などの排出がなく、また経費も民間に委託するより安いことなどがメリットという。デメリットはコンテナが傷みやすいことぐらいで、まだ輸送量に余裕があるようだ。ただしリニア残土輸送が割り込んでゴミ輸送に影響はないのか。実際、輸送する残土量は焼却灰の量とは比較にならない多さであり、貨車への積み込みで稼働するディーゼル機器の騒音などの被害も予想される。



# 川崎市内で増え続ける気管支ぜん息患者 幹線道路のクルマ走行量増加が要因の一つ

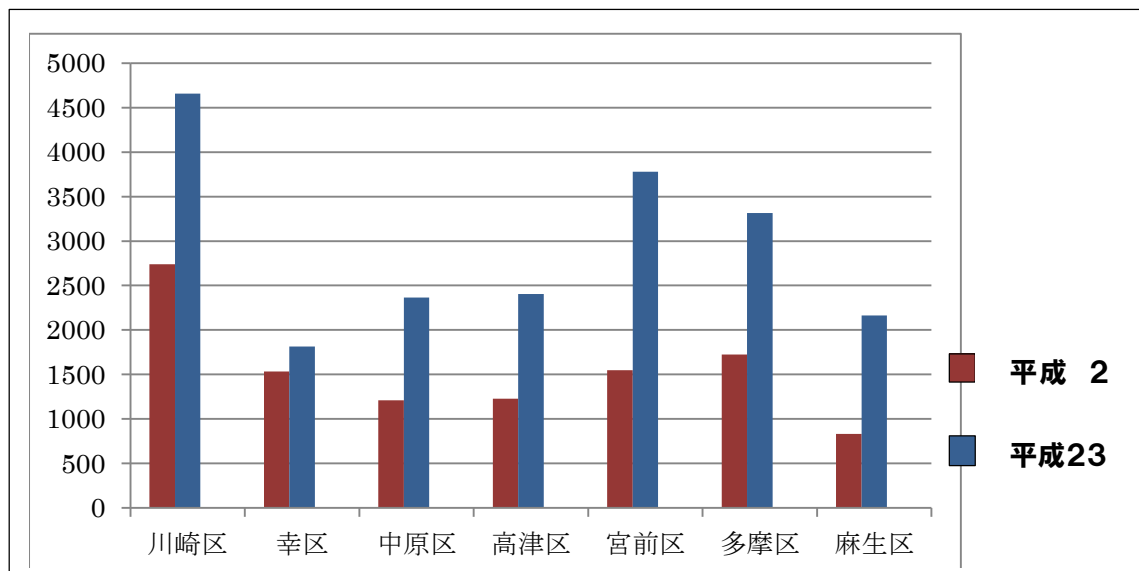
川崎市内では北部を中心に成人、小児ともぜん息患者が増加している。市は、気管支ぜん息の主要因はハウスダストなどのアレルギーによるもので、クルマの排気ガスや工場の排煙が原因ではないとし、ぜん息患者の医療費助成見直しの方針を検討したという。以下は月別認定新患者数である。

2015年 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 合計数

川崎区	13	9	9	13	10	10	6	12	2	7	7	98
幸区	14	4	9	9	5	5	10	5	2	2	9	74
中原区	13	7	9	9	9	14	6	6	7	3	8	91
高津区	18	12	11	7	10	11	13	12	10	9	12	125
宮前区	12	11	14	15	14	11	16	14	19	22	19	167
多摩区	10	5	9	14	19	10	11	6	7	9	19	119
麻生区	36	19	39	39	34	33	36	31	24	21	31	343
全市	116	67	100	106	101	94	98	86	71	73	105	1017

(上の数字は市が正式に明らかにしている。また、12月はまだ発表されていない)

医療関係者の多くは、クルマの排気ガスに含まれる二酸化窒素や浮遊粒子状物質などが主要原因の一つであると指摘している。その証拠に、かつて国道のクルマや臨海部の工場の排煙により、川崎区や幸区で多くのぜん息患者が生まれ、4大公害事件と言われた1960～70年代に比べ、現在は高津区から麻生区の市の中北部でぜん息患者が急増している。それは、東名や第三京浜、尻手黒川線、246などの高速道路、幹線道路を走行するクルマの数が増えていることと無縁ではない。中北部では地形的に道路周辺に大気汚染物質が溜まりやすいとも言われている。患者の発生場所をポイントして行くと幹線道路周辺に集中していることも明らかだ。下のグラフは、平成2年と23年の助成患者数比較。



左図の患者数は医療費助成を受けている数であり、実際の患者数はもっと多いのだ

## 100万台のリニア工事車両が走れば、更に大気汚染が進行する

市内のリニア工事で想定されている工事残土量は407万トン、工事車両（ダンプカー）は100万台となる。そのうち多くの工事車両の走行が尻手黒川線に集中する。JR東海は「影響は少ない」というが、気管支ぜん息の増加に表れた事実はJR東海の説明が極めていい加減であることを物語っている。



## 山梨でトンネル起工式抗議集会

ユネスコ・エコパーク南アルプスに

トンネルを掘るの？！



**基調講演：松島信幸さん**  
(理学博士、  
地質学会名誉会員)  
「南アルプスのトンネルは  
なぜ危険か」

**日時：2月27日(土)13:30~16:30**

**場所：山梨県中央市立玉穂生涯学習館**

**視聴覚ホール**

**中央市下河東1-1 ☎055(230)7300**

昨年12月18日、南アルプストンネルの山梨県側の早川町で強行した「トンネル起工式」に抗議し、この長大トンネル工事の危険性について、南アルプスの地層に詳しい研究者・松島さんから学ぶとともに、ストップ！リニア沿線ネット各グループからの活動報告があります。

## 3月の行動予定をお知らせします

**3月13日(日) AM10:00からPM2:30**

「原発ゼロカウントダウン in かわさき」集会

場所：中原区・平和公園

(東横線元住吉駅下車徒歩10分)

リニアの問題点を紹介する展示

参加者は集会後武蔵小杉駅までパレードします。

**3月中(予定)日時が決まり次第連絡します(下)**

「リニア陳情3件の市議会審査」

場所：川崎市議会まちづくり委員会

(川崎駅下車7分、市議会棟)

傍聴に多数参加を！9時45分までに5階の傍聴者控室集合。

リニア工事で発生する残土問題中心。

**3月19日(土) PM2:00~3:30**

「リニア工事の中止を求めるチラシ配布とリレートーク」

場所：JR品川駅港南口デッキ

「月曜定例会」と東京・神奈川連絡会共催。

## <リニア沿線最新情報>

### JR東海リニア工事調査で基準値超の鉛検出

2月22日、岐阜県はリニア工事の事前調査で地下水から基準値を超える鉛が検出されたとJR東海から報告があったことを明らかにしました。それによる主な井戸の鉛検出は・・・

(以下2016年1月調査)

中津川市山口 0.65mg/L6.5倍(鉛)

瑞浪市日吉町 0.042mg/L4.2倍(鉛)

(以下2012年~14年調査)

瑞浪市大湫町 1.1mg/L1.4倍(フッ素)

多治見市北丘町 0.0094mg/L18.8倍(総水銀)

県は、JR東海に嚴重注意し、これまで同社が行なった地下水調査等の全容、報告遅れの理由、再発防止策の早急な報告を求めました。

.....リニア関連新刊書紹介.....

「リニア中央新幹線に未来はあるか」

鉄道の高速化を考える

西川榮一著、自治体研究社、1204円

著者は1940年生まれ。大阪大学工学部卒業。工学博士。神戸商船大学名誉教授。専門は機械工学、交通機関工学、環境工学。「交通機関のスピード化について考える」などの著書がある。

内容は、「高速化の技術」

「高速化の経済性」の他、

「リニアは地震に耐えられるのか」など、リニア

の安全性にも言及している。

JR東海はリニアの「安全神話」を振りまいてい

るが、鉄道工学に詳しい著者の解析は、鉄道の高速化、安全性だけでなく、リニア鉄道の全体像を多分野から見る上で参考になる。



**ここが問題！リニア新幹線NEWS NO. 40**

発行：リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会

天野捷一(中原・高津)090-3910-8173

山本太三雄(宮前) 090-8775-1879

矢沢美也(麻生・多摩)090-6108-6568